

テーマ：『 子供が主体的によりよい環境を創造する「モノづくり」環境教育 』

北九州市立 西門司小学校

Tel. 093-381-4138

担当者： 都留 守



■実践内容:

校舎内に「材料銀行」を設置し、不要物や廃材等、廃棄すればゴミになってしまう身近材を集めておけるようにした。それらの身近材を、各学年の図画工作科の時間に「モノづくり」として位置付け、造形活動を実施した。

■実践成果:

不要物や廃材等の身近材の本格的な加工や活用に取り組むことができた。写真左上は、材料銀行の様子である。子供たちが身近材を集めてきたものをいつでも制作活動に生かせるようにストックしている。右上は、1年生が図画工作科の「どうぶつむらのピクニック」で集めてきた空き箱を利用して作った動物の作品である。左下は、6年生が図画工作科の「12さいの思いをかたちにしよう～西門司ワークス～」で廃材を利用して自分のテーマを表現した作品である。右下は、ダンボール粘土を作っている様子である。ダンボールを溶かして、粘土に生まれ変わらせている。子供達は不要物や廃材が作品に生まれ変わる「モノづくり」の体験をして、身の回りのモノに対しての関心を高めている。環境問題への一つの視点となることが期待できる。

■実践ポイント:

子供たちが身の回りの不要物や廃材等に関心を高めるようになるには、具体的に活用する体験を積む必要がある。図画工作科で造形活動を思いきり楽しませ、将来の「モノづくり」の活動に生かせるようにしたい。